

岡山県感染症週報 2013 年 第 2 週 (1 月 7 日～ 1 月 13 日)

◎ 岡山県は『インフルエンザ注意報』を発令しました。(1 月 17 日発令)

◎ 岡山県は『腸管出血性大腸菌感染症警報』発令中です。

◆2013 年 第 2 週 (1/7～ 1/13) の感染症発生動向 (届出数)

■全数把握感染症の発生状況

第 1 週 2 類感染症 結核 1 名 (30 代 女)

第 2 週 2 類感染症 結核 1 名 (90 代 男)

3 類感染症 腸管出血性大腸菌感染症 1 名 (O157:20 代 男)

■定点把握感染症の発生状況

○インフルエンザは、県全体で 488 名 (定点あたり 1.85 → 5.81 人) の報告があり、前週より増加しました。

岡山県はインフルエンザ注意報を発令し、広く注意喚起を図ることとしました。

○感染性胃腸炎は、減少傾向でしたが再び増加しました (定点あたり 8.30 → 10.48 人)。

【第 3 週 速報】

○インフルエンザとみられる学校等の臨時休業が 34 施設でありました。(1 月 14 日～1 月 17 日まで)

1. **インフルエンザ**は、県全体で 488 名 (定点あたり 5.81 人) の報告があり、前週 (1.85 人) より大きく増加しました。注意報発令基準となる定点あたり 5.00 人を越えたため、岡山県ではインフルエンザ注意報を発令し (1 月 17 日発令)、広く注意を呼びかけています。
県内の詳しい発生状況などは『インフルエンザ情報』をご覧ください。
全国では、第 1 週 (12/31～1/6) の定点あたり報告数が 3.91 人となり、前週 (3.35 人) より増加しました。全ての都道府県で流行開始の指標である定点あたり 1.00 人を超え、増加がつづいています
2. **腸管出血性大腸菌感染症**は、1 名の発生がありました。例年、患者は冬に減少する傾向にありますが、昨年は 12 月に 13 名の発生があるなど、冬でも感染の可能性があります。食肉は中心部まで火を通すなど、通常の食中毒予防を励行し、感染予防に努めましょう。
3. **感染性胃腸炎**の定点あたり患者数は、第 50 週以降減少傾向でしたが、再び増加に転じました (定点あたり 8.30 → 10.48 人)。県内の発生状況など詳しくは『感染性胃腸炎情報』をご覧ください。

流行の推移と発生状況

疾病名	推移	発生状況	疾病名	推移	発生状況
インフルエンザ	↑	★★	RSウイルス感染症	→	★★
咽頭結膜熱	↑	★	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	↑	★
感染性胃腸炎	↗	★★★★★	水痘	→	★★
手足口病	↑	★	伝染性紅斑	↑	★
突発性発疹	↑	★★	百日咳	↑	★
ヘルパンギーナ	↓		流行性耳下腺炎	↗	★
急性出血性結膜炎	→		流行性角結膜炎	↓	★
細菌性髄膜炎	→		無菌性髄膜炎	→	
マイコプラズマ肺炎	↓	★	クラミジア肺炎	→	

【記号の説明】 前週からの推移: ↓ : 2 倍以上の減少 ↘ : 1.1～2 倍未満の減少 → : 1.1 未満の増減

↗ : 1.1～2 倍未満の増加 ↑ : 2 倍以上の増加

発生状況: 空白:発生なし ★:僅か ★★:少し ★★★:やや多い ★★★★:多い ★★★★★:非常に多い

※今週の流行状況を過去5年間と比較し、5段階で表示しています。

◎インフルエンザ、感染性胃腸炎、RSウイルス感染症など冬に流行がみられる感染症が増加しています。

外出後や調理前・食事前の手洗い、うがいを励行し、人混みでのマスクの着用など感染予防に努めてください。また、感染した時は、せきエチケットを守るなど他の人にうつさないように気をつけ、体調の悪いときは早めに医療機関を受診してください。

インフルエンザ情報 2013 年 第 2 週 (1 月 7 日 ~ 1 月 13 日)

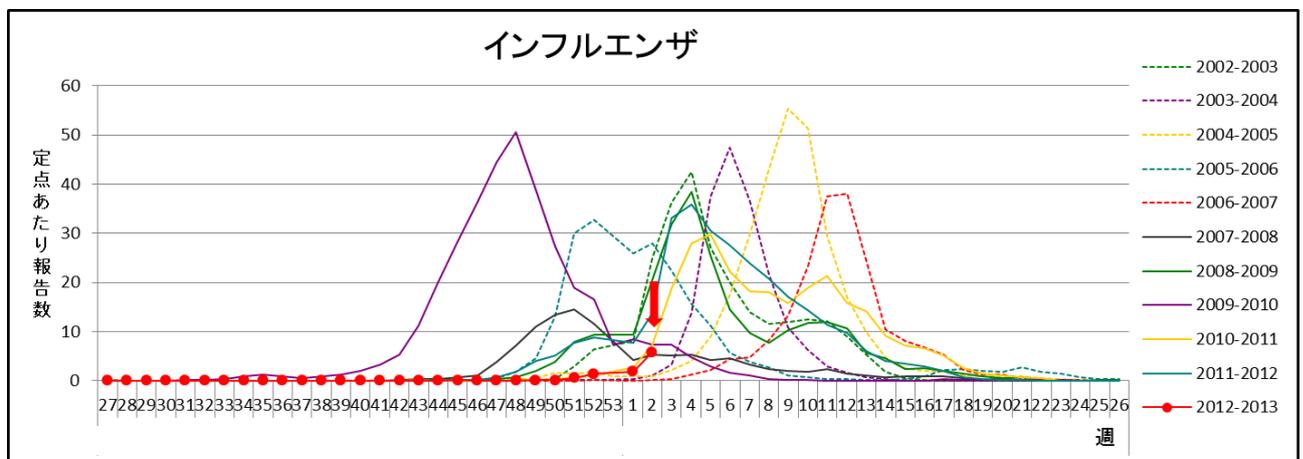
岡山県は、インフルエンザ注意報を発令しました。(1 月 17 日)

➤ 岡山県の流行状況

- インフルエンザは、県全体で 488 名 (定点あたり 1.85 → 5.81 人) の報告があり、大きく増加しました。
注意報発令基準の 5.00 人を越えたため、**岡山県はインフルエンザ注意報を発令**し、注意を呼びかけています。
- インフルエンザ患者 4 名のうち、3 名からインフルエンザウイルス AH3 型が、1 名から B 型が検出されました。
- インフルエンザによる入院患者 3 名の報告がありました。
- インフルエンザとみられる学校等の臨時休業はありませんでした。

【第 3 週 速報】

- インフルエンザとみられる学校等の臨時休業が、34 施設でありました。(1 月 14 日~1 月 17 日まで)
▽岡山市 10 ▽倉敷市 6 ▽瀬戸内市 5 ▽井原市 4 ▽津山市 3 ▽総社市 1 ▽赤磐市 1 ▽備前市 1
▽美作市 1 ▽美咲町 1 ▽勝央町 1
- 県内で発生したインフルエンザ患者 13 名全員から、インフルエンザウイルス AH3 型が検出されました。



※インフルエンザは、通常、秋から翌年の春にかけて流行するため、前年 27 週 ~ 今年 26 週を 1 シーズンとして、グラフを作成しています。

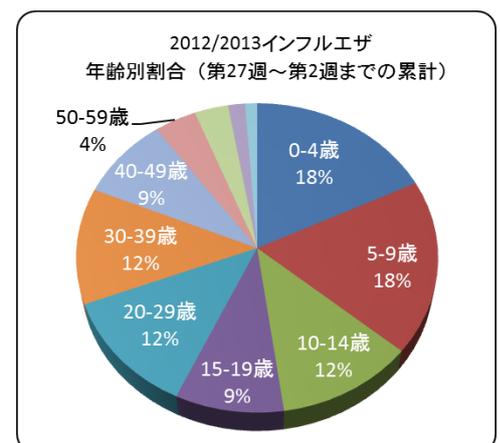
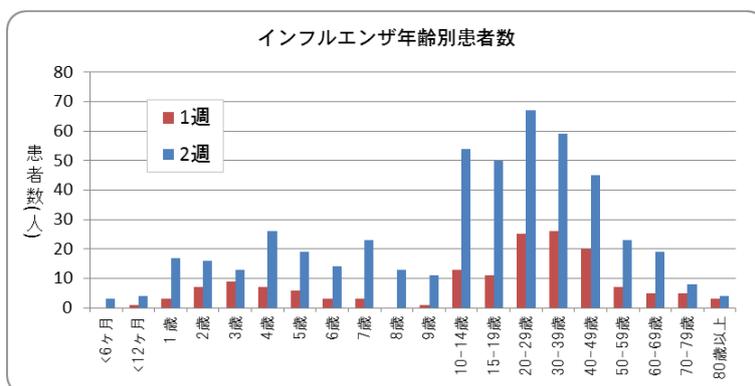
インフルエンザは、県全体で 488 名 (定点あたり 1.85 → 5.81 人) の報告があり、前週より大きく増加しました (84 定点医療機関報告)。岡山県では、第 52 週にインフルエンザが流行入りして以降、患者増加が続いています。注意報発令基準の定点あたり 5.00 人を上まわり、今後も流行が継続する可能性があることから、1 月 17 日、「インフルエンザ注意報」を発令し、広く注意喚起を図ることとしました。

地域別では、倉敷市 (3.44 → 9.69 人) で最も報告が多く、岡山市、備中地域で注意報発生レベルを越えるなど、全ての地域で急速に流行が拡大しています。

新学期の始まりとともに、第 3 週 (1/14~) には、学校等の臨時休業が多数報告され、今後の患者増加が懸念されます。『外出後や食事前の手洗い・うがいを徹底する。』『人混みを避け、人混みに入るときはマスクを着用する。』『十分な睡眠を取る。』など、感染予防に努めて下さい。また症状のある方は早めに医療機関を受診するとともに、マスクを着用するなど咳エチケットを心がけましょう。

1. 年齢別発生状況 第 2 週 (1/7~1/13)

特に、幼稚園児・小学生・中学生に該当する年齢層で増加がみられます。また、20 歳以上の成人でも患者が増加しており、全ての年齢層で注意が必要です。

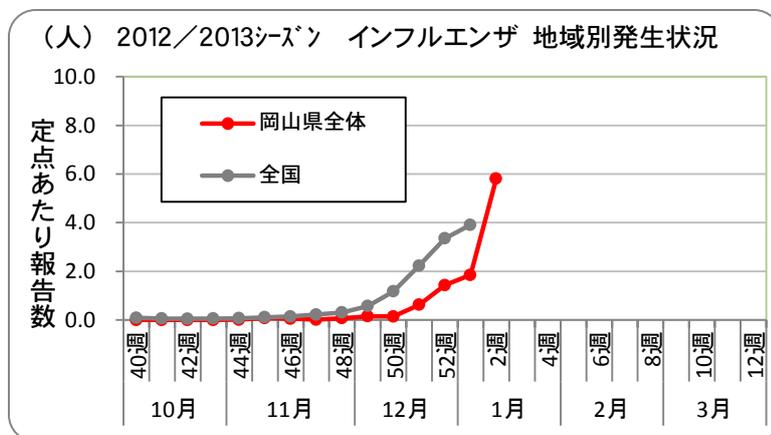


2. 地域別発生状況

第2週 (1/7~1/13) 前週からの推移 (単位:人)

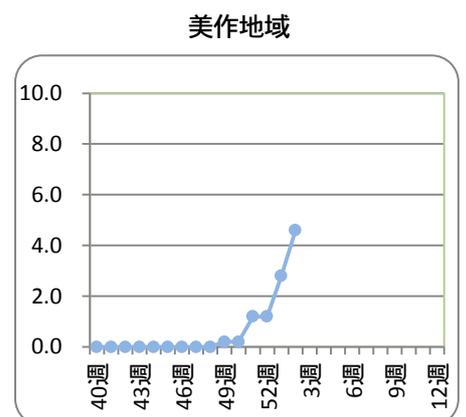
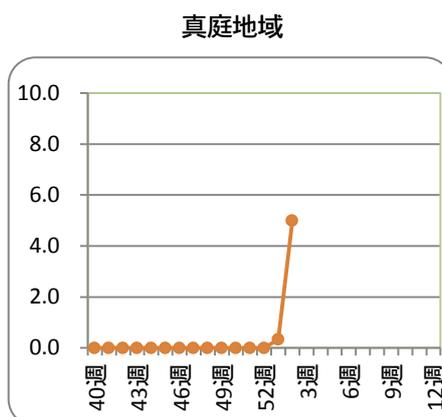
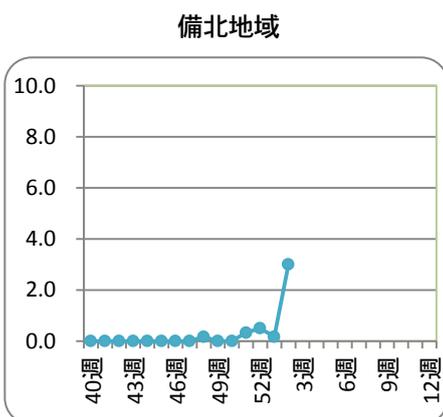
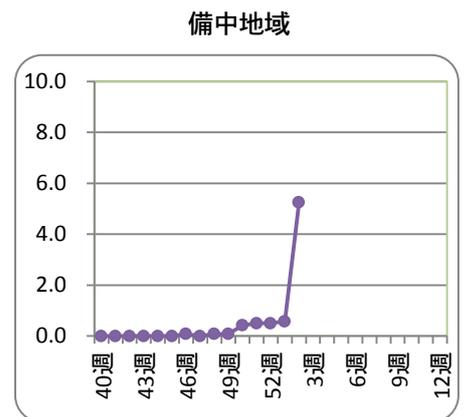
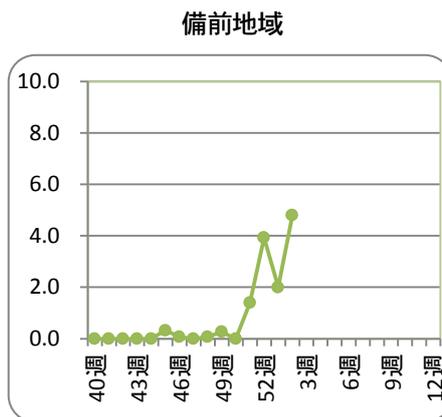
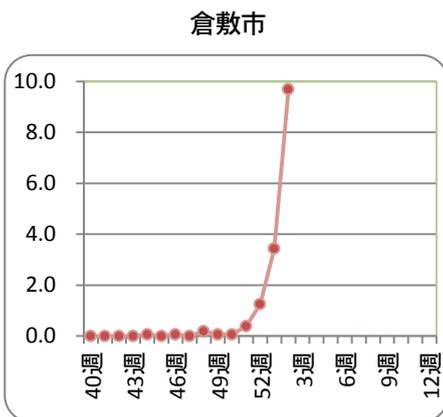
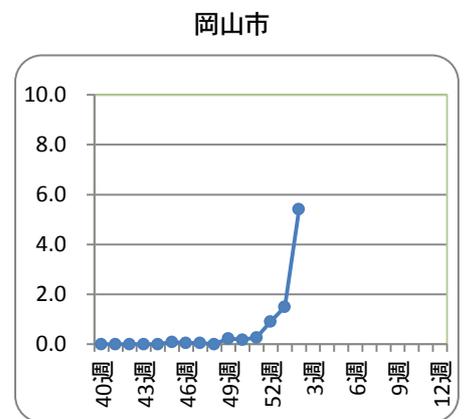
地域名	発生状況		推移	地域名	発生状況		推移
岡山県全体	患者数	488	↑	備中	患者数	63	↑
	定点あたり	5.81			定点あたり	5.25	
岡山市	患者数	119	↑	備北	患者数	18	↑
	定点あたり	5.41			定点あたり	3.00	
倉敷市	患者数	155	↑	真庭	患者数	15	↑
	定点あたり	9.69			定点あたり	5.00	
備前	患者数	72	↑	美作	患者数	46	↑
	定点あたり	4.80			定点あたり	4.60	

【記号の説明】 前週からの推移: 2倍以上の減少 ↓ 1.1~2倍未満の減少 ↘ 1.1未満の増減 →
 1.1~2倍未満の増加 ↗ 2倍以上の増加 ↑ - : 未発生



全国集計第1週(12/31~1/6)の定点あたり患者数は3.91人でした。

全ての都道府県で流行開始の指標である1.00人を上まわり、増加がつづいています。



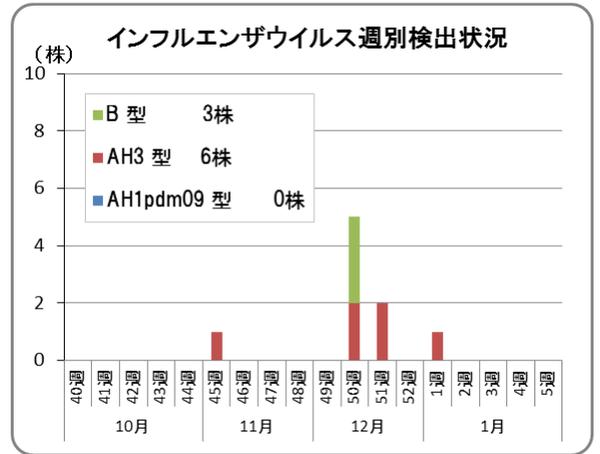
3. インフルエンザウイルス検出状況 第2週 (1/7~1/13)

第2週、環境保健センターで検出されたインフルエンザウイルスは、県内で発生した散発事例のインフルエンザ患者4名のうち、3名からAH3型が、1名からB型が検出されました。

岡山県でこれまでに検出されたインフルエンザウイルスは、AH3型が6株、B型が3株です。

全国で検出されたインフルエンザウイルスは、AH3型が最も多く86%、B型が9%、AH1pdm09型が5%の順になっており、昨シーズン同様AH3型が主流になっています。

[\(インフルエンザウイルス分離・検出速報 国立感染症情報センター\)](#)



【ウイルス検出速報 第3週】

県内で発生したインフルエンザ患者13名全員から、インフルエンザウイルスAH3型が検出されました。

ウイルス名	検体採取週	検体採取日	地域	年齢	性別	備考
インフルエンザウイルス B 型	2012 年第 50 週	2012 年 12 月 12 日	笠岡市	小学生	女	
インフルエンザウイルス AH3 型	2012 年第 51 週	2012 年 12 月 19 日	玉野市	小学生	女	
インフルエンザウイルス AH3 型	2012 年第 51 週	2012 年 12 月 20 日	玉野市	小学生	男	
インフルエンザウイルス AH3 型	2013 年第 1 週	2013 年 1 月 4 日	岡山市	50 代	男	

4. インフルエンザ様疾患による学校等の臨時休業施設数 第2週 (1/7~1/13)

第2週、インフルエンザとみられる学校の臨時休業はありませんでした。

1) 有症者数・欠席者数および臨時休業措置の内訳

地域名*	有症者数		うち欠席者数		施設数合計		休園・休校数		学年閉鎖施設数		学級閉鎖施設数		初発年月日
	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	
岡山県全体	—	23	—	19	—	2	—	—	—	—	—	2	H24. 11. 6
岡山市	—	12	—	12	—	1	—	—	—	—	—	1	H24. 11. 6
倉敷市	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
備前地域	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
備中地域	—	11	—	7	—	1	—	—	—	—	—	1	H24. 12. 12
備北地域	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
真庭地域	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
美作地域	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

* 地域名は、保健所管轄地域を表しています

2) 臨時休業施設数の内訳

第2週：0施設 累計：2施設

施設数	保育所		幼稚園		小学校		中学校		高等学校		その他	
	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計	今週	累計
施設数	—	—	—	—	—	1	—	—	—	1	—	1

5. インフルエンザによる入院患者報告数 第2週（1/7～1/13）（県内基幹定点 5 医療機関による報告）

インフルエンザによる入院患者3名（幼児 2名、70代 1名）の報告がありました。

幼児や高齢者、慢性疾患・代謝疾患をもつ人、免疫機能が低下している人などでは重症化することがありますので注意が必要です。幼児ではまれに脳炎を起こすことがあります。水分をとった後、すぐ吐いてしまい元気がない、意識がはっきりせずうとうととしている、けいれんを起こす、このような症状がみられるときは、すぐに医療機関に相談しましょう。

【第2週 入院患者報告数】

年齢	1歳未満	1～4歳	5～9歳	10～14歳	15～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳以上	計*
入院患者数		1	1								1		3
ICU入室													
人工呼吸器の利用													
頭部CT検査(予定含)			1										1
頭部MRI検査(予定含)													
脳波検査(予定含)													
いずれにも該当せず		1									1		2

*重複あり

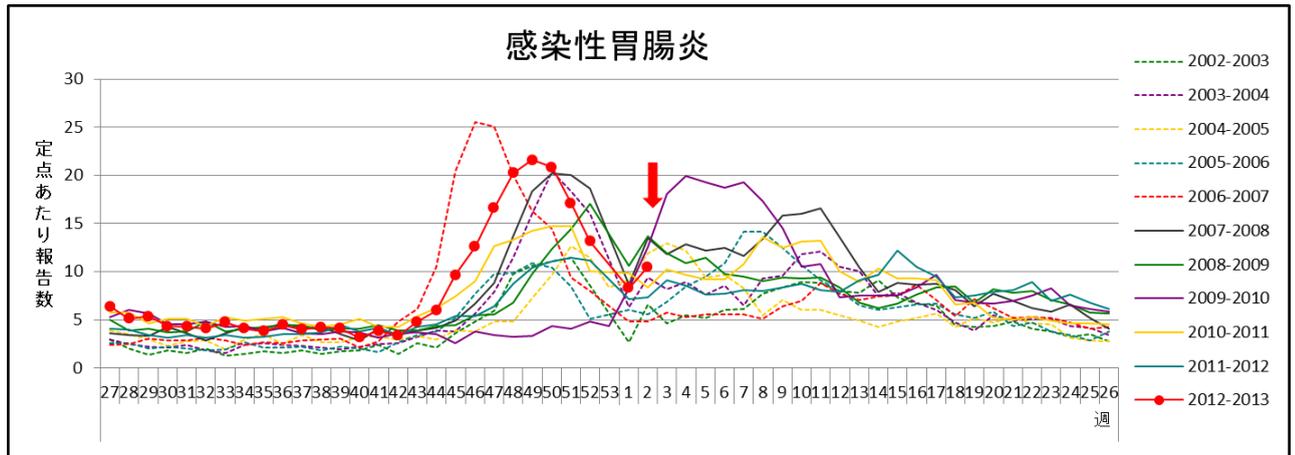
【平成24年9月3日以降に入院した患者の累計数】

年齢	1歳未満	1～4歳	5～9歳	10～14歳	15～19歳	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳以上	計*
入院患者数		1	1			1					1		4
ICU入室													
人工呼吸器の利用													
頭部CT検査(予定含)			1										1
頭部MRI検査(予定含)													
脳波検査(予定含)													
いずれにも該当せず		1				1					1		3

*重複あり

感染性胃腸炎情報 2013 年 第 2 週 (1月7日 ~ 1月13日)

○岡山県内の患者報告数は 566 名 (定点あたり 10.48 人) であり、前週より増加しました。(54 定点医療機関報告)

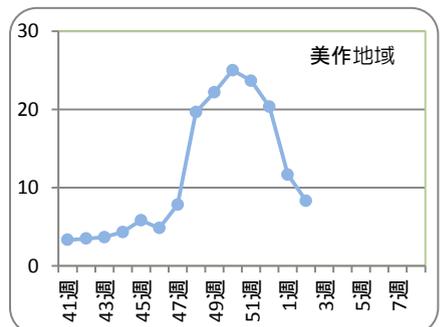
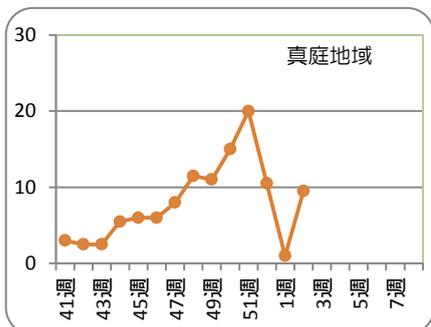
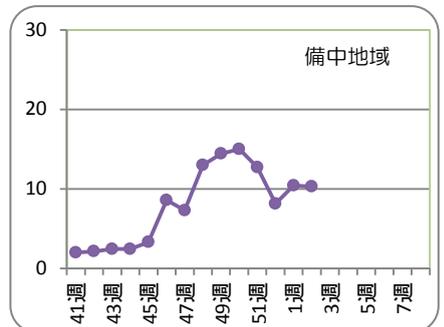
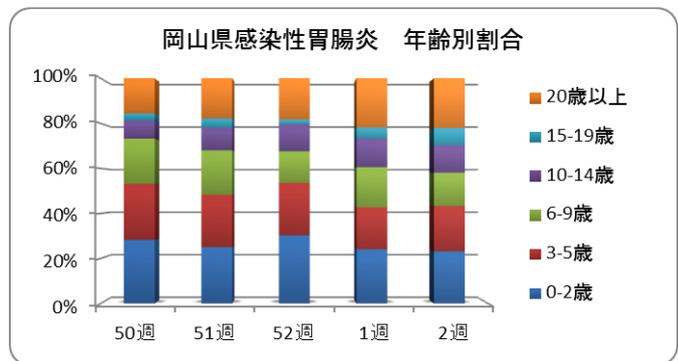


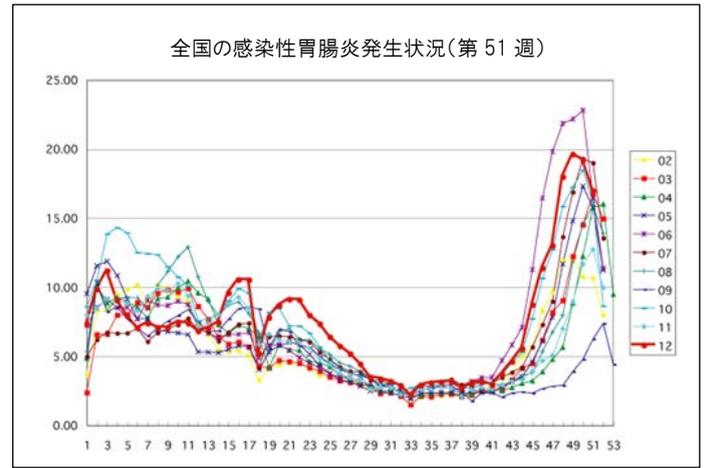
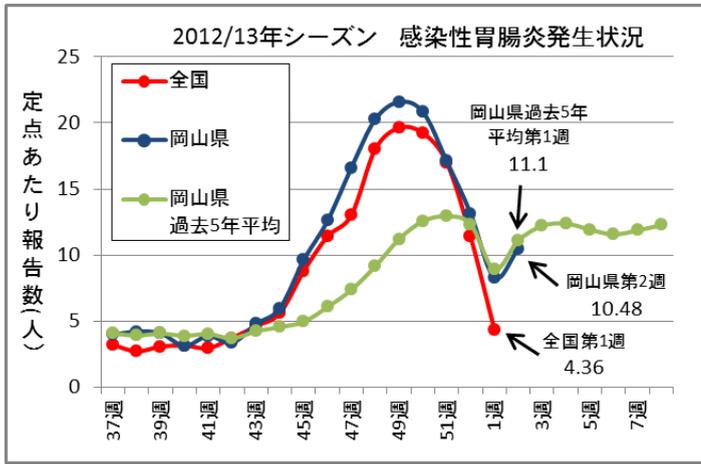
※感染性胃腸炎は秋から翌年の春にかけて流行するため、前年 27 週 ~ 今年 26 週を 1 シーズンとして、グラフを作成しています。

感染性胃腸炎は、4 週連続で減少傾向にありましたが、今週増加に転じました。(定点あたり 8.30 → 10.48 人)。全ての地域で発生レベル 1 になりましたが、倉敷市 (11.36 人)、備前地域(13.20 人)、備中地域 (10.29 人)、備北地域 (13.50 人) など、依然として患者が多い状態です。年齢別では、5 歳以下の幼児で 43% を占めています。また、15 歳以上の割合も増加傾向であり、乳幼児、小児だけでなく、全ての年齢層で注意が必要です。

患者数は過去 5 年平均と同程度になりましたが、今後も流行期がつづくことから、手洗いなど感染予防に努めてください。学校、医療機関、福祉施設などではひきつづき、手洗いの徹底や、下痢便・吐物の適切な処理などの感染予防と拡大防止に努めてください。

◆地域別・年齢別発生状況





(国立感染症研究所HPより)

この時期の感染性胃腸炎の主な原因であるノロウイルスの感染予防は、流水・石けんによる手洗いの励行と、吐物や下痢便の適切な処理を行うことが極めて重要です。排便後や、調理・食事の前には手洗いを励行しましょう。吐物や下痢便を処理するときは、使い捨ての手袋やエプロンを使用して他へ感染を広げないよう気をつけましょう。また、処理する人自身が感染しないよう気をつけましょう。消毒には塩素系漂白剤を使用し、広い範囲を消毒して下さい。アルコールは消毒効果が低いとされています。また、拭き取りに使った布などはただちにゴミ袋に入れ密閉し、廃棄してください。[○ノロウイルスに関するQ&Aについて\(厚生労働省\)](#)

[○注意！この冬はノロウイルスに注意しましょう。\(厚生労働省\)](#)

【医療機関などの方へ】

◆ノロウイルスに関する院内感染事案の報告等に関する事務連絡が厚生労働省から発出されました。
(平成24年12月25日)

全国では、院内感染によるノロウイルスの集団感染事例や患者の死亡事案が散見されています。厚生労働省では平成24年12月25日付で、ノロウイルスに関する院内感染事案の報告等に関する事務連絡が発出され、さらなる感染予防対策に努めるよう注意喚起を行っています。

- さらなる手洗いの徹底や、糞便・吐物の適切な処理等の感染予防対策をお願いします。
- 院内感染によるノロウイルスの集団感染を疑う場合や、院内感染との因果関係が否定できない死亡事例が発生した場合は、速やかに管轄保健所に報告し、支援を受けるをお願いします。

保健所別報告患者数 2013年 2週 (2013/01/07~2013/01/13)

2013年1月16日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	488	5.81	119	5.41	155	9.69	72	4.80	63	5.25	18	3.00	15	5.00	46	4.60
RSウイルス感染症	36	0.67	15	1.07	9	0.82	1	0.10	6	0.86	-	-	-	-	5	0.83
咽頭結膜熱	7	0.13	2	0.14	3	0.27	-	-	-	-	-	-	1	0.50	1	0.17
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	31	0.57	10	0.71	11	1.00	-	-	2	0.29	-	-	1	0.50	7	1.17
感染性胃腸炎	566	10.48	114	8.14	125	11.36	132	13.20	72	10.29	54	13.50	19	9.50	50	8.33
水痘	91	1.69	27	1.93	28	2.55	9	0.90	14	2.00	3	0.75	3	1.50	7	1.17
手足口病	10	0.19	4	0.29	-	-	3	0.30	-	-	-	-	1	0.50	2	0.33
伝染性紅斑	4	0.07	1	0.07	1	0.09	2	0.20	-	-	-	-	-	-	-	-
突発性発疹	19	0.35	7	0.50	2	0.18	5	0.50	-	-	1	0.25	-	-	4	0.67
百日咳	1	0.02	-	-	1	0.09	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎	13	0.24	2	0.14	-	-	6	0.60	2	0.29	-	-	-	-	3	0.50
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	1	0.08	-	-	-	-	-	-	1	1.00	-	-	-	-	-	-
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	1	0.20	1	1.00	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(- : 0 or 0.00) (空白 : 定点なし)

保健所別報告患者数 2013年 2週 (2013/01/07~2013/01/13)

2013年1月16日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	488	5.81	119	5.41	155	9.69	72	4.80	63	5.25	18	3.00	15	5.00	46	4.60
咽頭結膜熱	7	0.13	2	0.14	3	0.27	-	-	-	-	-	-	1	0.50	1	0.17
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	31	0.57	10	0.71	11	1.00	-	-	2	0.29	-	-	1	0.50	7	1.17
感染性胃腸炎	566	10.48	114	8.14	125	11.36	132	13.20	72	10.29	54	13.50	19	9.50	50	8.33
水痘	91	1.69	27	1.93	28	2.55	9	0.90	14	2.00	3	0.75	3	1.50	7	1.17
手足口病	10	0.19	4	0.29	-	-	3	0.30	-	-	-	-	1	0.50	2	0.33
伝染性紅斑	4	0.07	1	0.07	1	0.09	2	0.20	-	-	-	-	-	-	-	-
百日咳	1	0.02	-	-	1	0.09	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎	13	0.24	2	0.14	-	-	6	0.60	2	0.29	-	-	-	-	3	0.50
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	1	0.08	-	-	-	-	-	-	1	1.00	-	-	-	-	-	-

濃黄セルに赤字は岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル3
薄黄セルに黒数字は岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル2 を示しています。

感染症発生動向調査 週情報 報告患者数 年齢別 (2013年 第2週 2013/01/07~2013/01/13)

疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80~
インフルエンザ	488	3	4	17	16	13	26	19	14	23	13	11	54	50	67	59	45	23	19	8	4

疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20~
RSウイルス感染症	36	10	11	10	-	4	1	-	-	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱	7	1	1	-	1	1	2	-	-	1	-	-	-	-	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	31	-	2	1	-	2	5	6	4	-	2	3	4	-	2
感染性胃腸炎	566	3	30	60	38	42	28	44	25	24	21	14	68	44	125
水痘	91	3	3	27	20	12	9	6	5	2	1	1	2	-	-
手足口病	10	1	-	4	-	1	-	2	1	-	-	-	-	-	1
伝染性紅斑	4	-	-	-	-	-	1	-	-	1	1	1	-	-	-
突発性発疹	19	1	8	8	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
百日咳	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
ヘルパンギーナ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎	13	-	-	2	-	1	2	3	2	1	2	-	-	-	-

疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70~	
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-

疾病名	合計	0歳	1-4	5-9	10-14	15-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55-59	60-64	65-69	70~
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

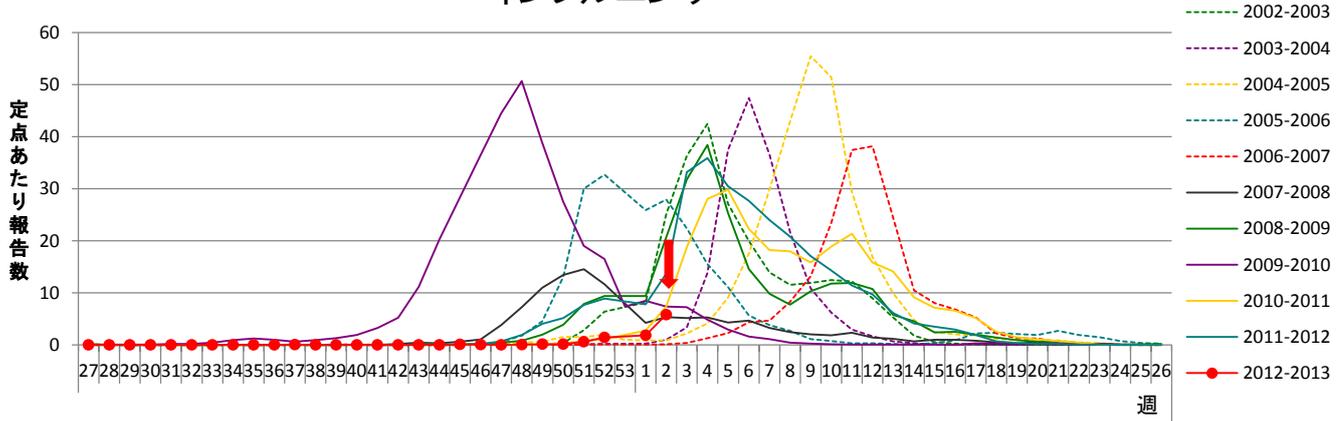
(- : 0)

全数把握 感染症患者発生状況

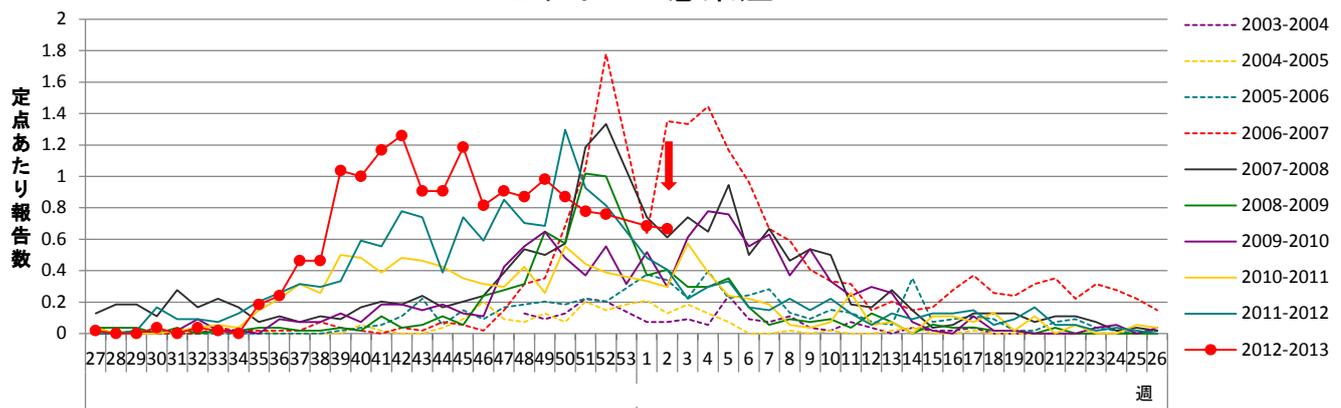
2013年 2週

分類	疾病名	2013			疾病名	2013			疾病名	2013		
		今週	累計	昨年		今週	累計	昨年		今週	累計	昨年
一類	エボラ出血熱	-	-	-	クリミア・コンゴ出血熱	-	-	-	痘そう	-	-	-
	南米出血熱	-	-	-	ペスト	-	-	-	マールブルグ病	-	-	-
	ラッサ熱	-	-	-		-	-	-		-	-	-
二類	急性灰白髄炎	-	-	-	結核	1	2	470	ジフテリア	-	-	-
	重症急性呼吸器症候群	-	-	-	鳥インフルエンザ(H5N1)	-	-	-		-	-	-
三類	コレラ	-	-	-	細菌性赤痢	-	-	-	腸管出血性大腸菌感染症	1	1	169
	腸チフス	-	-	1	パラチフス	-	-	-		-	-	-
四類	E型肝炎	-	-	-	ウエストナイル熱	-	-	-	A型肝炎	-	-	2
	エキノкокクス症	-	-	-	黄熱	-	-	-	オウム病	-	-	-
	オムスク出血熱	-	-	-	回帰熱	-	-	-	キャサヌル森林病	-	-	-
	Q熱	-	-	-	狂犬病	-	-	-	コクシジオイデス症	-	-	-
	サル痘	-	-	-	腎症候性出血熱	-	-	-	西部ウマ脳炎	-	-	-
	ダニ媒介脳炎	-	-	-	炭疽	-	-	-	チクングニア熱	-	-	-
	つつが虫病	-	-	2	デング熱	-	-	1	東部ウマ脳炎	-	-	-
	鳥インフルエンザ	-	-	-	ニパウイルス感染症	-	-	-	日本脳炎	-	-	-
	日本紅斑熱	-	-	-	ハンタウイルス肺症候群	-	-	-	Bウイルス病	-	-	-
	鼻疽	-	-	-	ブルセラ症	-	-	-	ベネズエラウマ脳炎	-	-	-
	ヘンドラウイルス感染症	-	-	-	発しんチフス	-	-	-	ボツリヌス症	-	-	-
	マラリア	-	-	-	野兔病	-	-	-	ライム病	-	-	-
	リッサウイルス感染症	-	-	-	リフトバレー熱	-	-	-	類鼻疽	-	-	-
	レジオネラ症	-	-	29	レプトスピラ症	-	-	-	ロッキー山紅斑熱	-	-	-
	五類	アメーバ赤痢	-	-	11	ウイルス性肝炎*3	-	-	7	急性脳炎*4	-	-
クリプトスポリジウム症		-	-	-	クロイツフェルト・ヤコブ病	-	-	1	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	-	-	1
後天性免疫不全症候群		-	-	15	ジアルジア症	-	-	3	髄膜炎菌性髄膜炎	-	-	-
先天性風しん症候群		-	-	-	梅毒	-	-	7	破傷風	-	-	1
バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症		-	-	-	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	-	-	2	風しん	-	-	6
麻しん		-	-	6		-	-	-		-	-	-

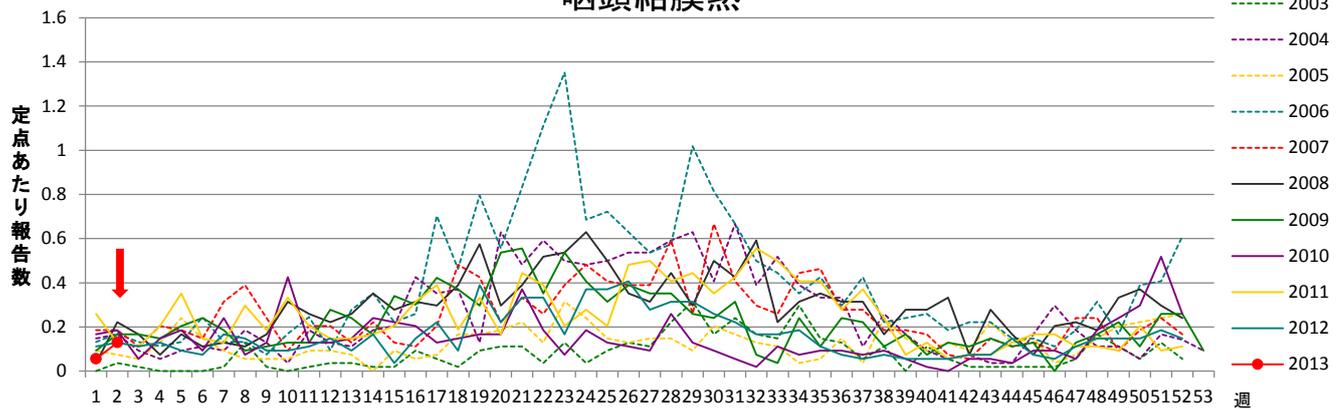
インフルエンザ



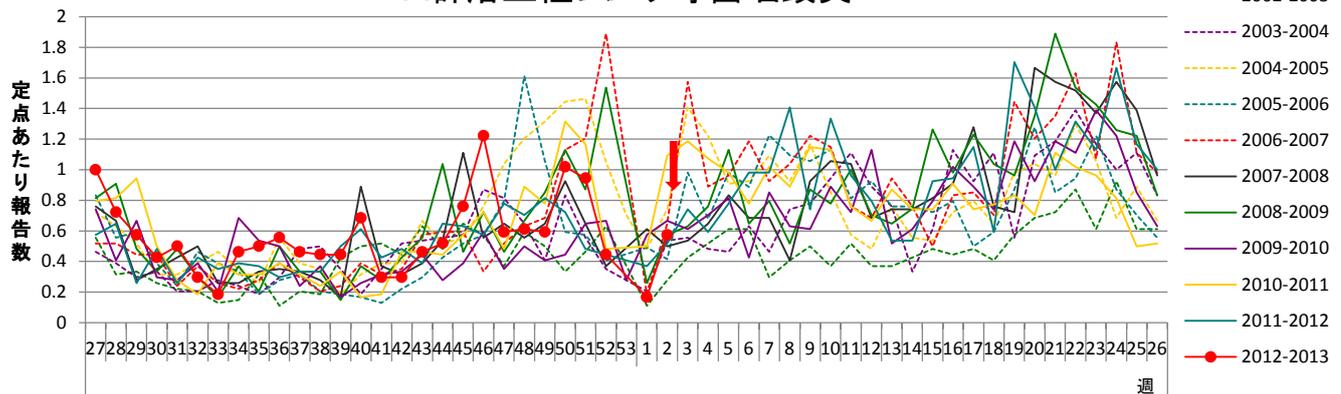
RSウイルス感染症



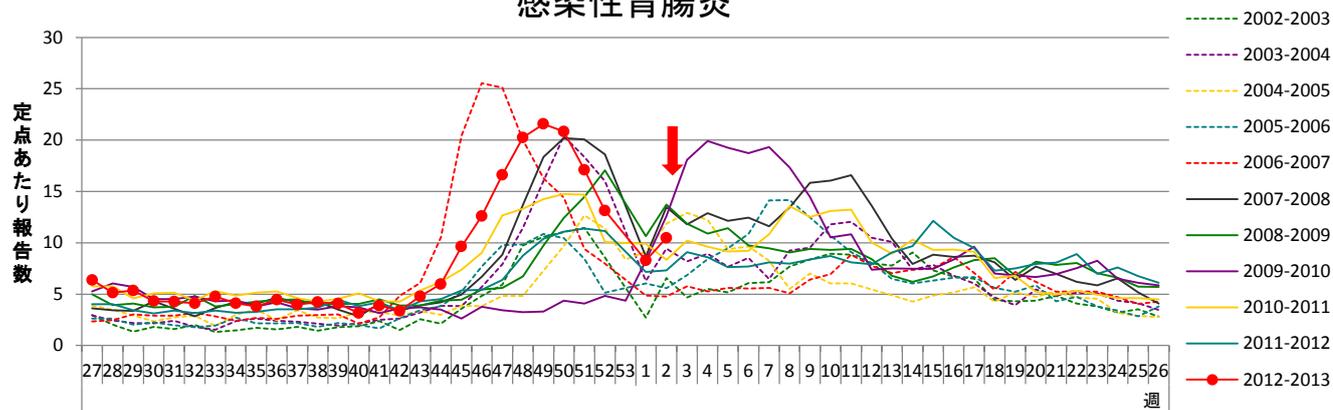
咽頭結膜熱



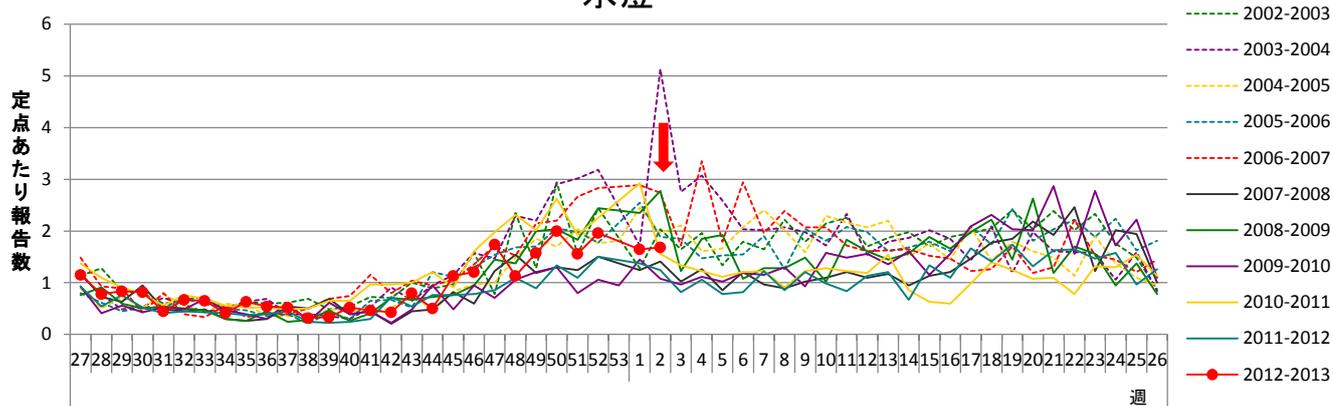
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎



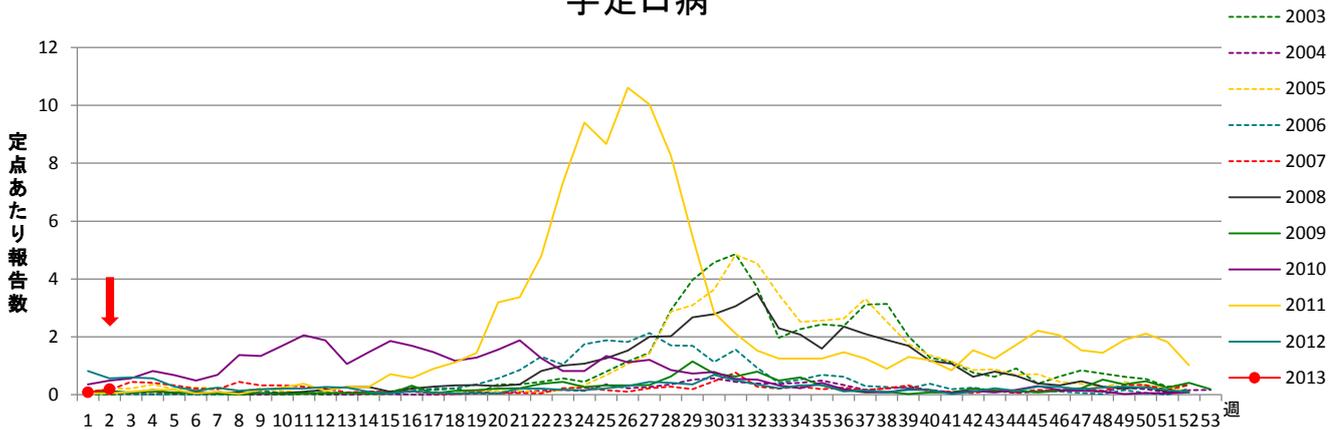
感染性胃腸炎



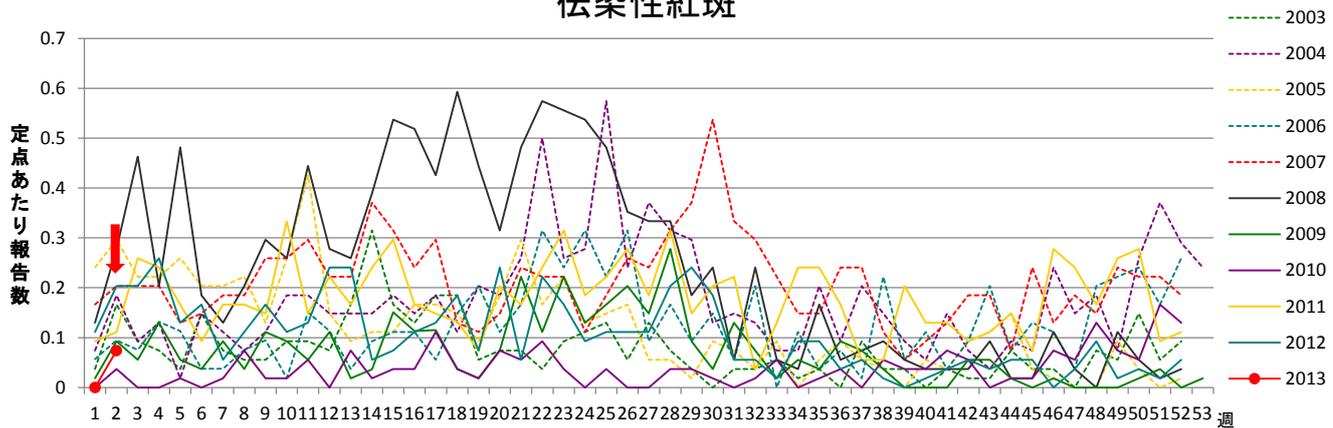
水痘



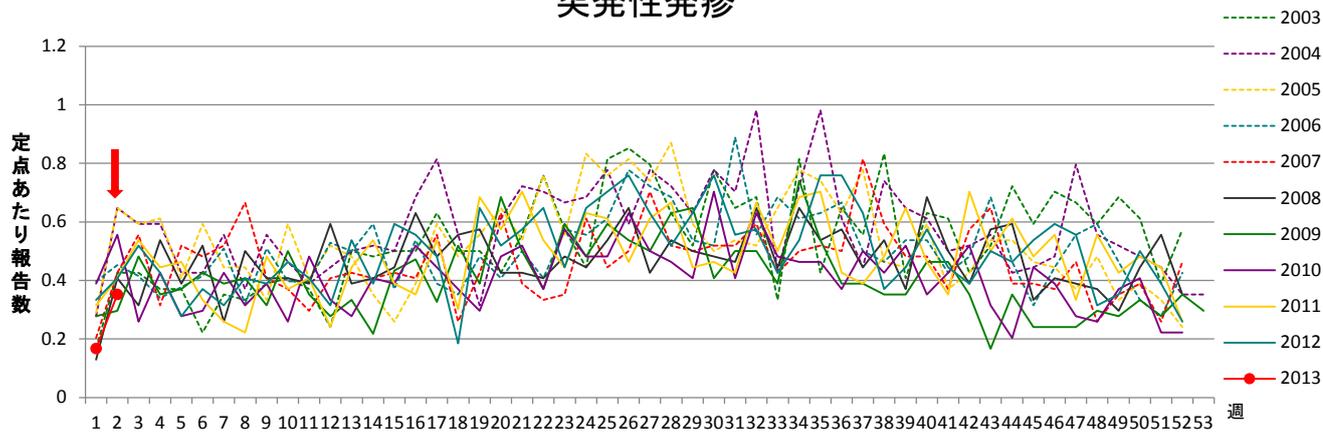
手足口病



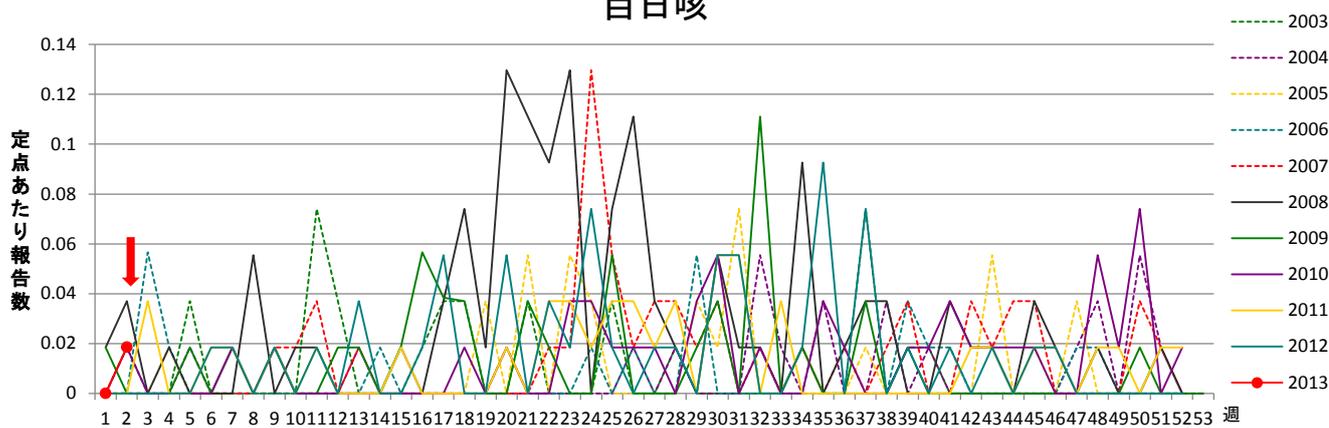
伝染性紅斑



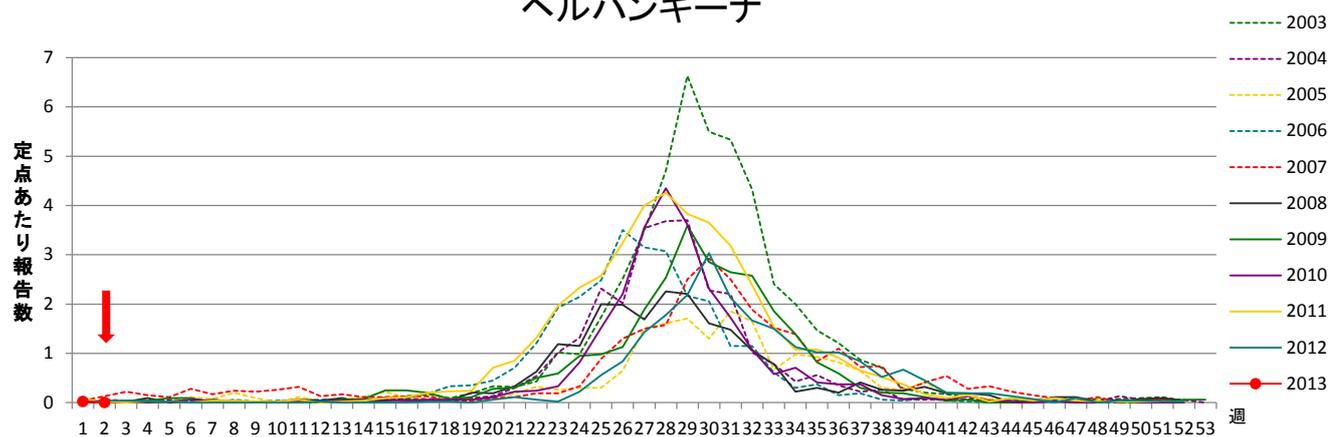
突発性発疹



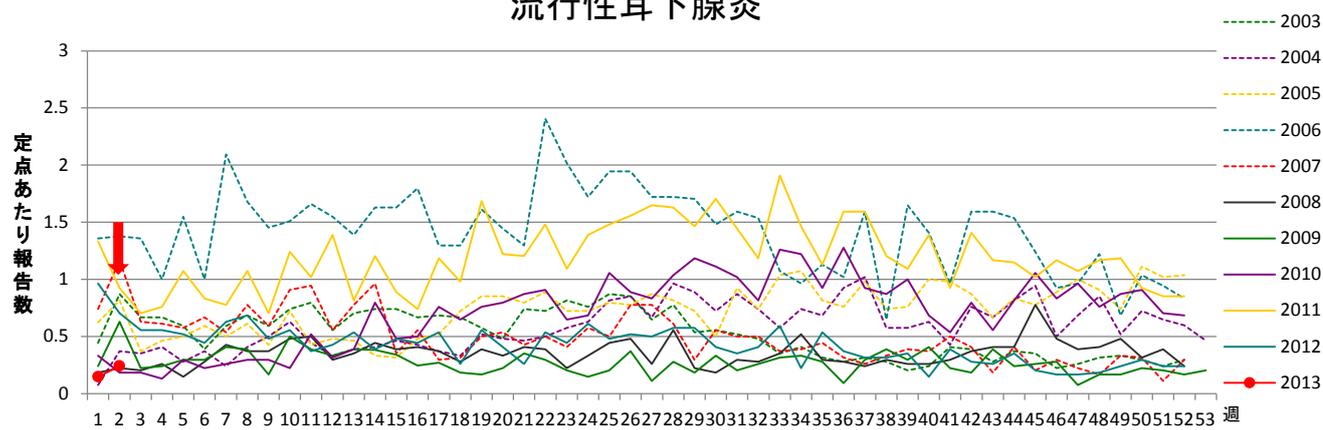
百日咳



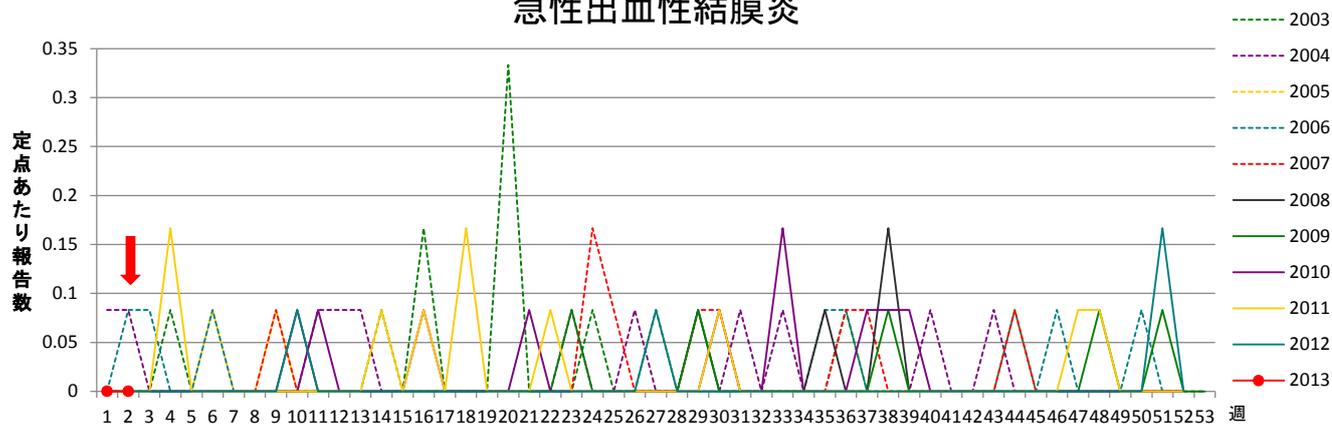
ヘルパンギーナ



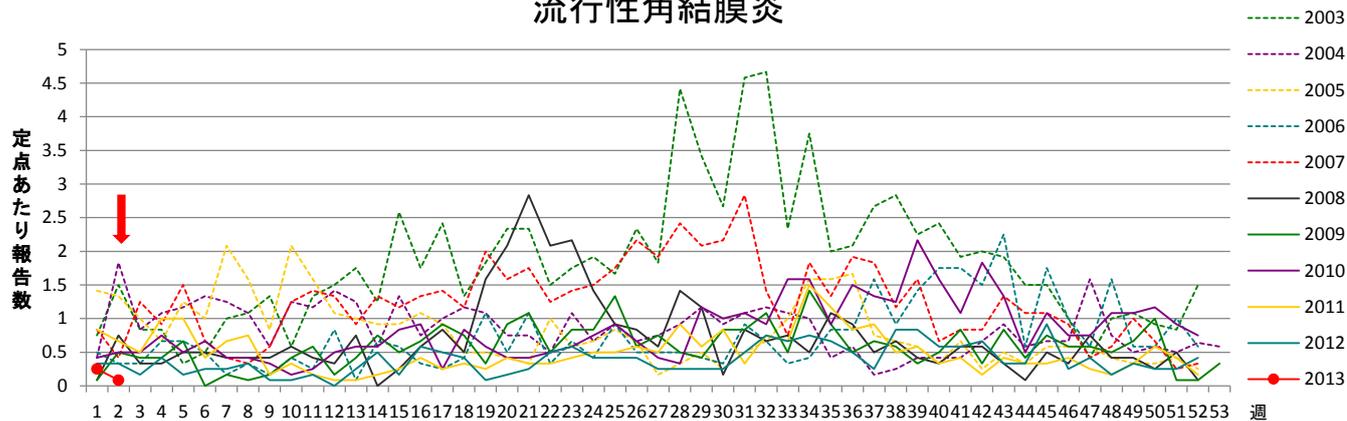
流行性耳下腺炎



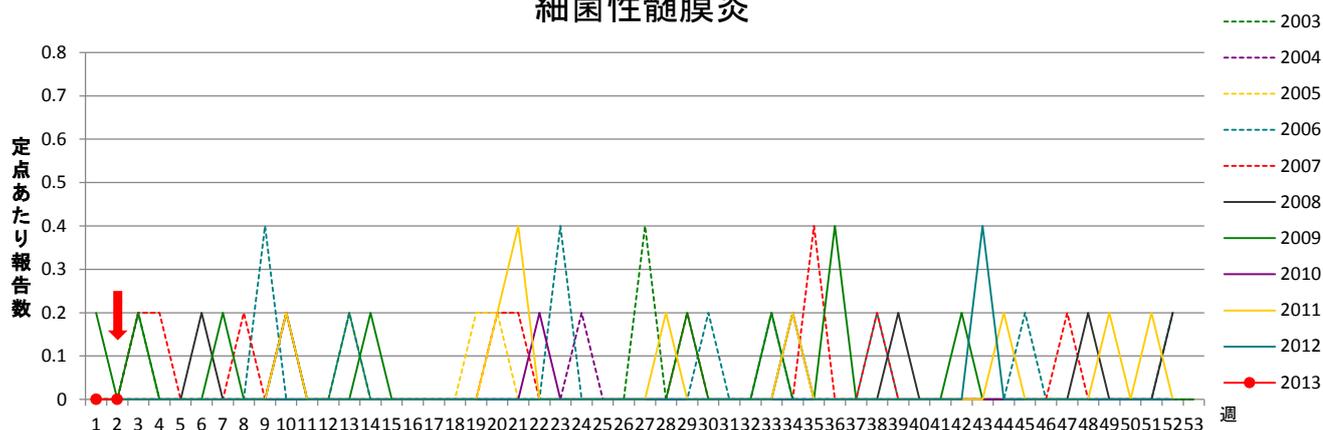
急性出血性結膜炎



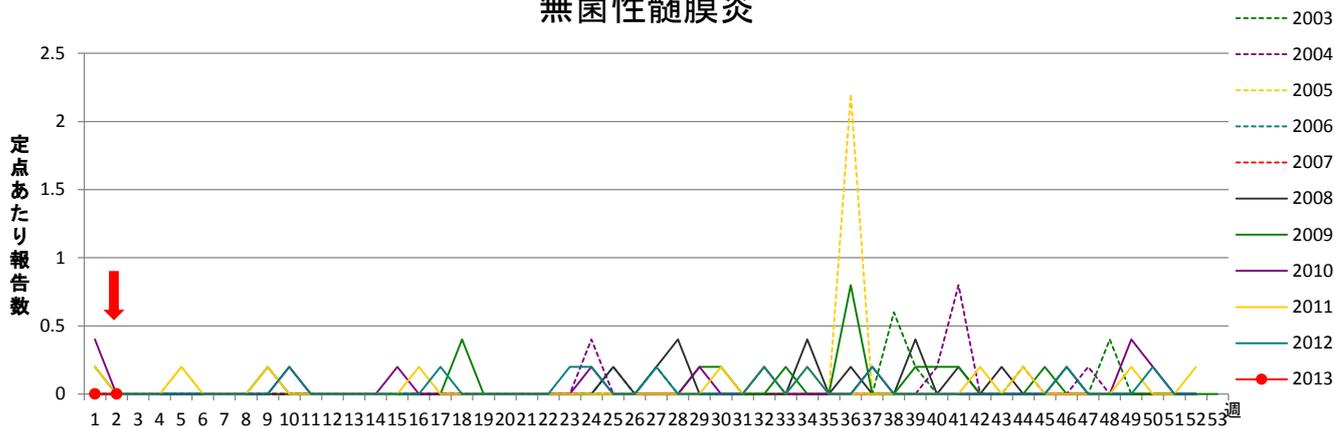
流行性角結膜炎



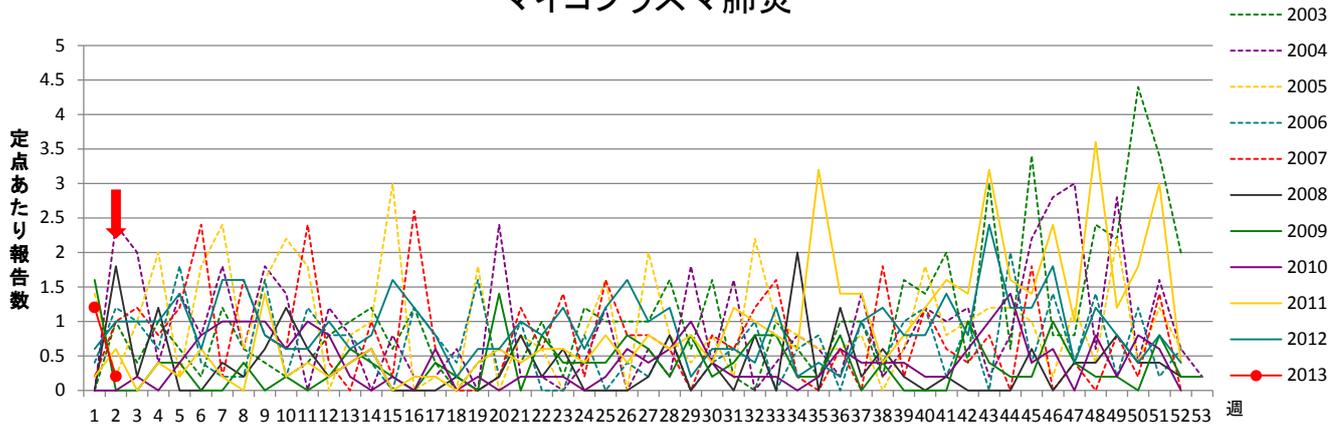
細菌性髄膜炎



無菌性髄膜炎



マイコプラズマ肺炎



クラミジア肺炎

